

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
172	59.30	59.62	70~80°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体であるが、大半が消滅しかかっている。一部の割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布する。	59.30	59.62	70~80°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体であるが、大半が消滅しかかっている。一部の割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布する。	59.30	59.62	59.30~59.62m:傾斜70~80°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体で、大半が消滅しかかっている。一部の割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布する。	
173	60.33	60.33	他の割れ目を切るせん断面。0~3mm、黒褐(7.5YR 3/3)の砂質粘土をまきま。	60.33	60.33	他の割れ目を切るせん断面。幅0~3mmの黒褐色(7.5YR 3/3)のマンガン汚染砂質粘土をまきま。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	60.33	60.33	59.33m:幅0~3mmの黒褐色のマンガン汚染を挟む割れ目で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
174	59.62	59.98	硬さDと上位より硬くなるが、割れ目自体に風化が進み、砂状~細片状化している。59.95m~80°、幅0.5mmの白色軟弱粘土層がほぼ直線でシャープに分布。	59.62	59.98	硬さDと上位より硬くなるが、割れ目自体に風化が進み、砂状~細片状化している。59.95m~80°、幅0.5mmの白色軟弱粘土層がほぼ直線でシャープに分布。	59.62	59.98	59.62~59.98m:割れ目自体に風化が進み、砂状~細片化する。59.95mに傾斜60°で幅0.5mmの軟弱な白色粘土層がほぼ直線でシャープに分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
175	59.98	60.11	全体が軟化著しくなる。60.09m~70°、幅0.5~1mmの白色軟弱粘土層がほぼ直線でシャープに分布。	59.98	60.11	全体が軟化著しくなる。60.09m~70°、幅0.5~1mmの白色軟弱粘土層がほぼ直線でシャープに分布。	59.98	60.11	59.98~60.11m:全体が著しく軟化する。60.09mに傾斜70°で幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土層がほぼ直線でシャープに分布する。	
176			破砕帯Hb(G断面 主せん断面:60.12m)	60.12	60.15	破砕帯Hb(G断面-最新活動面:60.12m)	60.12	60.15	●60.12~60.15m:破砕帯 60.12~60.13m:粘土状部(Hc-1) 上端40°でほぼ直線のシャープに、下端40°で波打って連続。上端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径1~2mmの石英粒と径5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片をわずかに含む。軟質。灰白色を呈する。幅1~10mmと膨脹する。 60.13~60.15m:粘土混じり膠状部(H) 上端40°、下端45°でともに波打って連続。下端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径5~10mmの花崗斑岩の岩片主体で岩片間に幅0.5mmの灰白色粘土を伴う。径5~30mm、にぶい黄色を呈する。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
177	60.12	60.15	上端40°、下端45°で、上端はほぼ直線のシャープに、下端はやや波打ちながら連続。上下端には幅1mmの明赤灰色軟弱粘土を伴う。径1~2mmの石英粒と5mm前後の粘土化したGp岩片を多く含む軟弱な硬質粘土で灰白~にぶい黄色を呈する。厚さは20~30mm。	60.12	60.13	Hc-1 粘土状破砕部 上端40°、下端45°で上端はほぼ直線のシャープに、下端はやや波打って連続。上端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径1~2mmの石英粒と径5mmの粘土化したGp岩片をわずかに含む。軟質。灰白色粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅1~10mmと膨脹する。	60.12	60.15	Hc-1 粘土状破砕部 上端40°、下端45°で上端はほぼ直線のシャープに、下端はやや波打って連続。上端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径1~2mmの石英粒と径5mmの粘土化したGp岩片をわずかに含む。軟質。灰白色を呈する。幅1~10mmと膨脹する。	
178				60.13	60.15	H 粘土混じり膠状破砕部 上端40°、下端45°でいずれも波打って連続。下端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径5~10mmのGp岩片主体で岩片間に幅0.5mmの灰白色粘土を伴う。軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。幅5~30mm、にぶい黄色を呈する。	60.13	60.15	H 粘土混じり膠状破砕部 上端40°、下端45°でいずれも波打って連続。下端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径5~10mmのGp岩片主体で岩片間に幅0.5mmの灰白色粘土を伴う。軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。幅5~30mm、にぶい黄色を呈する。	
179	60.12	60.13	(破砕度区分欄)Hb	60.12	60.13	(破砕度区分欄)Hc-1	60.12	60.13	(破砕度区分欄)Hc-1	
180	60.13	60.15	(破砕度区分欄)Hb	60.13	60.15	(破砕度区分欄)H	60.13	60.15	(破砕度区分欄)H	
181	60.15	60.84	著しく軟化し、割れ目はほぼ消滅している。原岩組織は残存している。処々、幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が分布する。60.46m~60°、割れ目自体に半分以上が消滅しかかっている。幅10mm程度でマンガン鉱染を受け黒褐色化。	60.15	60.84	著しく軟化し、割れ目はほぼ消滅している。原岩組織は残存している。所々、幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が分布する。60.46m~60°、割れ目自体に半分以上が消滅しかかっている。幅10mm程度でマンガン鉱染を受け黒褐色化。	60.15	60.84	60.15~60.84m:著しく軟化し、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は残存する。所々、幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が分布する。60.46mには傾斜60°の消えかかった割れ目自体に幅10mm程度でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	
182	60.84	62.64	40~60°割れ目とこれに斜交~直交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目自体は著しく砂状化するものが多い。軟弱な粘土層は分布しない。	60.84	62.64	40~60°割れ目とこれに斜交~直交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目自体は著しく砂状化するものが多い。軟弱な粘土層は分布しない。	60.84	62.64	60.84~62.64m:傾斜40~60°の割れ目とこれに斜交~直交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目自体は著しく砂状化するものが多い。軟弱な粘土層は分布しない。	
183	-	-	-	61.49	61.52	不規則な形状で濃褐色粘土状部を挟む。マンガン汚染を受けて黒褐色を呈する。	61.49	61.52	61.49~61.52m:不規則な形状で濃褐色粘土状部を挟む。マンガン汚染を受けて黒褐色を呈する。	
184	61.76	61.80	径2~10mmと細かく破砕された角礫と粘土基質で、基質はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。上下端は凹凸があり、直線的なシャープさはない。	61.76	61.80	径2~10mmの細かい角礫と粘土基質で、基質はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。上下端は凹凸があり、直線的なシャープさはない。	61.76	61.80	61.76~61.80m:径2~10mmの角礫と粘土基質で、基質はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。上下端は凹凸があり、直線的なシャープさはない。	
185	62.64	63.00	部外凸部となる。60°割れ目が主体で粘土層は分布しない。	-	-	-	62.64	63.00	62.64~63.00m:傾斜60°の割れ目が主体で、粘土層は分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
186	62.64	63.00	(コアの形状欄)Ⅴランク	62.64	63.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	62.64	63.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	
187	63.00	63.39	40~60°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体。粘土層は分布しない。割れ目自体は著しく砂状化する。	63.00	63.39	40~60°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体。粘土層は分布しない。割れ目自体は著しく砂状化する。	63.00	63.39	63.00~63.39m:傾斜40~60°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体で、粘土層は分布しない。割れ目自体は著しく砂状化する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名: H24-D1-1

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度				
			記事 記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)			記事 記事 選定した記事内容				
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
188	63.39	65.69	互いに斜交～直交する40～60°の割れ目が主体で、硬質(硬さC)。65.44m以深では風化も弱くなり、割れ目自体の薄い砂状化も認められなくなる。粘土層は殆んど分布せず実質も無い。	63.39	65.69	互いに斜交～直交する40～60°の割れ目が主体で、硬質(硬さC)。65.44m以深では風化も弱くなり、割れ目自体の薄い砂状化も認められなくなる。粘土層は殆んど分布せず実質も無い。	63.39	65.69	63.39～65.69m:互いに斜交～直交する傾斜40～60°の割れ目が主体で、65.44m以深では風化も弱くなり、割れ目自体の薄い砂状化も認められなくなる。粘土層は殆んど分布せず実質も無い。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
189	65.69	67.43	硬質で上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以深では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度。66.49m以深では硬質であるが割れ目周辺まで風化が及び深褐色化(にぶい黄褐色)する。変質は全区域で弱く、粘土化部や粘土層はわずかに分布するにすぎない。割れ目は20～40°とこれに斜交～直交する50～70°が主体である。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。	65.69	67.43	硬質で上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以深では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度。66.49m以深では硬質であるが割れ目周辺まで風化が及び深褐色化(にぶい黄褐色)する。変質は全区域で弱く、粘土化部や粘土層はわずかに分布するにすぎない。割れ目は20～40°とこれに斜交～直交する50～70°が主体である。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。	65.69	67.43	65.69～67.43m:上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以深では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度で、66.49m以深では割れ目周辺まで風化が及び深褐色化する。粘土化部や粘土層はわずかに分布する。傾斜20～40°とこれに斜交～直交する50～70°の割れ目が主体で、割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。	記事欄以外から読み取れる硬さ、変質、色調の情報は記載しない
190	65.44	67.43	(割れ目状悪層)のランク	65.44	67.43	(割れ目状悪層)のランク	65.44	67.43	(割れ目状悪層)のランク	-
191	65.69	67.43	(岩級区分層)CL	65.69	67.43	(岩級区分層)CM	65.69	67.43	(岩級区分層)CM	-
192	66.10	66.65	φ2～5mmの白濁した長石斑晶が多く分布。	-	-	-	66.10	66.65	66.10～66.65m:傾斜2～5mmの白濁した長石斑晶が多く分布する。	-
193	66.49	67.43	(風化層)のランク	66.49	67.43	(風化層)のランク	66.49	67.43	(風化層)のランク	-
194	67.08	67.22	φ5～10mmと大型の石英斑晶が多く分布。	-	-	-	67.08	67.22	67.08～67.22m:径5～10mmの大型な石英斑晶が多く分布する。	-
195	67.43	67.70	硬質であるが、上位よりも割れ目～低密着割れ目が多くなる。	-	-	-	67.43	67.70	67.43～67.70m:上位よりも割れ目や低密着割れ目が多くなる。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
196	67.55	67.55	65°、割れ目に幅0.5mmの軟弱な白色粘土層が分布。これ以外には粘土層や粘土化部は分布しない。	67.55	67.55	65°、割れ目に幅0.5mmの軟弱な白色粘土層が分布。これ以外には粘土層や粘土化部は分布しない。	67.55	67.55	67.55m:傾斜65°で幅0.5mmの軟弱な白色粘土層を挟む。	-
197	67.70	68.32	上位に比べやや軟化した硬さDである。割れ目は互いに交差する40～50°が主体で、一部に幅0.5～1mmの淡黄色粘土層をはさむ。	67.70	68.32	上位に比べやや軟化した硬さDである。割れ目は互いに交差する40～50°が主体で、一部に幅0.5～1mmの淡黄色粘土層を挟む。	67.70	68.32	67.70～68.32m:傾斜40～50°の互いに交差する割れ目が主体で、一部に幅0.5～1mmの淡黄色粘土層を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
198	67.78	67.85	上下端60°割れ目には含まれて全体がやや軟化するが粘土化は伴わない。	67.78	67.85	上下端60°割れ目に含まれて全体がやや軟化するが粘土化は伴わない。	67.78	67.85	67.78～67.85m:上下端60°の割れ目に挟まれて、やや軟化するが、粘土化は伴わない。	-
199	68.32	68.52	幅1～3mmの軟弱な灰白～灰赤色粘土層が網状に分布し、全体が軟化著しくなる。	68.32	68.52	幅1～3mmの軟弱な灰白～灰赤色粘土層が網状に分布し、全体が軟化著しくなる。	68.32	68.52	68.32～68.52m:軟化が著しく、幅1～3mmの軟弱な灰白～灰赤色粘土層が網状に分布する。	-
200	68.52	68.52	70°で幅2～5mmの軟弱な灰白～明黄褐色(10YR 6/8)粘土を挟むせん断性割れ目やや打って連続する。	68.52	68.52	70°で幅2～5mmの軟弱な灰白～明黄褐色(10YR 6/8)粘土を挟むせん断性割れ目やや打って連続性・直線性に乏しい。連貫する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	68.52	68.52	68.52m:傾斜70°で幅2～5mmの軟弱な灰白～明黄褐色粘土を挟む割れ目やや打って連続性・直線性に乏しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-
201	68.52	68.94	全体に粘土化が進み軟化著しい。68.93m以深では幅1～3mmの軟弱な白色粘土が網状に分布。	68.52	68.94	全体に粘土化が進み軟化著しい。白色粘土が網目状に分布する。68.93m以深では幅1～3mmの軟弱な白色粘土が網状に分布。	68.52	68.94	68.52～68.94m:全体に粘土化が進み軟化が著しい。白色粘土が網目状に分布する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの要要点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			
202	68.84	69.00	破砕帯	破砕部			
203	68.84	68.93	H 上端50°、下端55°で、上端は不明瞭、下端はやや波打って連続。φ5~10mm粘土化岩片主体の粘土混り岩片状。明灰褐~灰白色を呈す。厚さ32mm。	H 上端50°、下端55°で、上端は不明瞭、下端はやや波打って連続。φ5~10mm粘土化岩片主体の粘土混り岩片状。明灰褐~灰白色を呈す。厚さ32mm。 幅1~3mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。 軟質~やや軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			●68.84~69.00m:破砕部 68.84~68.93m:粘土混り岩片状部(H) 上端50°で不明瞭、下端55°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。明灰褐~灰白色を呈す。幅32mm。 68.93~68.95m:粘土質軟状部(Hb) 上端50°、下端50°でともにやや波打って連続。径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。右葉は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色を呈す。幅20~30mm。 68.95~69.00m:粘土混り岩片状部(H) 上端50°、下端45°でともにやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土層を伴う。灰褐色を呈す。幅32~36mm。
204	68.93	68.95	Hb(主せん断面・68.93m) 上端55°、下端50°で、両者ともやや波打って連続。φ5~18mmの粘土化した岩片を多く含む硬質粘土を伴う。右葉は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色。厚さ20~30mm。	Hb(最新活動面・68.93m) 上端55°、下端50°で、両者ともやや波打って連続。φ5~18mmの粘土化した岩片を多く含む粘土質硬状部でやや硬質。右葉は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色。厚さ20~30mm。 含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	68.84	69.00	
205	68.95	69.00	H 上端50°、下端45°で、両者ともやや波打って連続。φ5~10mmの粘土化した岩片が主体の粘土混り岩片状。下端は2mmの硬質な淡褐色粘土層。厚さ32~36mm。灰褐色を呈する。	H 上端50°、下端45°で、両者ともやや波打って連続。φ5~10mmの粘土化した岩片が主体の粘土混り岩片状。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土層。厚さ32~36mm。灰褐色を呈する。 軟質~やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
206	68.84	68.93	(破砕度区分)Hb	(破砕度区分)H	68.84	68.93	(破砕度区分)H
207	68.95	69.00	(破砕度区分)Hb	(破砕度区分)H	68.95	69.00	(破砕度区分)H
208	69.00	69.73	大半は割れ目は消滅するが、69.42m・68°、69.67m・70°で直線的でシャープな割れ目が残存。	—	69.00	69.73	69.00~69.73m:大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70°で直線的でシャープな割れ目が残存する。
209	69.06	69.18	60~80°、幅2~8mmの灰赤色粘土層が湾曲しながら連続。	—	69.06	69.18	69.06~69.18m:傾斜60~80°で幅2~8mmの灰赤色粘土層が湾曲しながら連続する。
210	69.73	71.21	上位よりも硬さ(D)と硬くなり、大半の割れ目が残存している。割れ目は10~30°と、これに斜交~直交する50~80°が主体で割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。	上位よりも硬さ(D)と硬くなり、大半の割れ目が残存している。割れ目は10~30°と、これに斜交~直交する50~80°が主体で割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。	69.73	71.21	69.73~71.21m:大半の割れ目が残存し、傾斜10~30°と、これに斜交~直交する50~80°の割れ目が主体で、割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。
211	69.79	69.93	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Cランク	69.79	69.93	(コアの硬さ欄)Cランク
212	70.10	70.40	割れ目はほぼ消滅している。粘土化部は粘土層の分布は少ない。	割れ目はほぼ消滅している。粘土化部は粘土層の分布は少ない。	70.10	70.40	70.10~70.40m:割れ目はほぼ消滅する。粘土層の分布は少ない。
213	69.89	69.97	69.89m・50°と69.97m・65°はせん断性割れ目であり、いずれも交差する割れ目を切り、変位量は前者で10mm右ズレ、後者で3~4mm右ズレ。	69.89m・50°と69.97m・65°の割れ目は、前者は面の凹凸が著しいが、そのかみ合わせは良い。後者は交差する割れ目を止めている。せん断性割れ目により、いずれも交差する割れ目を切り、変位量は前者が10mm右ズレ、後者が3~4mm右ズレ。両者とも挟在物はなく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	69.89	69.97	69.89m・50°の割れ目は面の凹凸が著しいが、そのかみ合わせは良い。69.97m・65°の割れ目は交差する割れ目を止めている。両者とも挟在物はなく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
214	71.21	71.35	著しく軟化した硬さ(E)で、割れ目はほぼ消滅するが、岩組織は大半が残存している。幅1~2mmの白色軟質粘土層が約40~60°で同方向に分布する。上端側では、マンガン鉱染で黒褐色化する。	著しく軟化した硬さ(E)で、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は大半が残存している。幅1~2mmの白色軟質粘土層が約40~60°で同方向に分布する。上端側では、マンガン鉱染で黒褐色化する。	71.21	71.35	71.21~71.35m:著しく軟化した硬さ(E)で、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は大半が残存している。幅1~2mmの白色軟質粘土層が約40~60°で同方向に分布する。上端側では、マンガン鉱染で黒褐色化する。
215	71.35	74.28	上位よりも硬くなる(硬さD)。割れ目は20~40°と、これに斜交~直交する40~70°割れ目が主体で、一部の割れ目では、割れ目ぞいに薄く砂状化~φ5mmに細片化する。粘土化部の粘土層の分布は少ないが、73.40m以上では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟質な灰白~白色粘土層を挟む。	上位よりも硬くなる(硬さD)。割れ目は20~40°と、これに斜交~直交する40~70°割れ目が主体で、一部の割れ目では、割れ目ぞいに薄く砂状化~φ5mmに細片化する。粘土化部の粘土層の分布は少ないが、73.40m以上では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟質な灰白~白色粘土層を挟む。	71.35	74.28	71.35~74.28m:傾斜20~40°と、これに斜交~直交する傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部の割れ目では、割れ目ぞいに薄く砂状化~φ5mmに細片化する。粘土層の分布は少ないが、73.40m以上では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟質な灰白~白色粘土層を挟む。
216	74.04	—	74.04m以上では40°割れ目ぞいに幅10~40mmでφ5mm前後の細片状を呈す。岩片間の一部にφ10mm前後の塊状に白色粘土化部を伴う。	74.04m以上では40°割れ目ぞいに幅10~40mmでφ5mm前後の細片状を呈す。岩片間の一部にφ10mm前後の塊状に白色粘土化部を伴う。	74.04	—	74.04m以上では傾斜40°の割れ目ぞいに幅10~40mmでφ5mm前後の細片状を呈す。岩片間の一部にφ10mm前後の塊状に白色粘土化部を伴う。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名: H24-D1-1		コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所と赤字(表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
217	74.28	75.50	74.28	75.50	74.28	75.50	74.28	75.50	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
218	-	-	74.70	75.50	74.70	75.50	74.70	75.50	
219	75.10	75.50	75.10	75.50	75.10	75.50	75.10	75.50	
220	75.50	77.75	75.50	77.75	75.50	77.75	75.50	77.75	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
221	77.10	77.25	77.10	77.25	77.10	77.25	77.10	77.25	
222	77.25	77.75	77.25	77.75	77.25	77.75	77.25	77.75	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
223	77.25	77.75	77.25	77.75	77.25	77.75	77.25	77.75	
224	77.75	78.77	77.75	78.77	77.75	78.77	77.75	78.77	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
225	78.77	79.19	78.77	79.19	78.77	79.19	78.77	79.19	硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる層の の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこと とし、柱状図には記載しない。
226	78.97	79.25	78.97	79.25	78.97	79.25	78.97	79.25	
227	79.25	79.85	79.25	79.85	79.25	79.85	79.25	79.85	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
228	79.25	79.85	79.25	79.85	79.25	79.85	79.25	79.85	
229	79.85	79.85	79.85	79.85	79.85	79.85	79.85	79.85	
230	79.85	80.08	79.85	80.08	79.85	80.08	79.85	80.08	
231	80.08	81.00	80.08	81.00	80.08	81.00	80.08	81.00	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
232	80.08	80.81	80.08	80.81	80.08	80.81	80.08	80.81	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名: H24-D1-1

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		No.	適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追加した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更しないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度		記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更しないものは「J」で表示)			上端深度	下端深度
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>										
233	80.81	81.00	硬さDと上位よりも硬い岩片が主体。		80.81	81.00	硬さDと上位よりも軟質な岩片が主体。			-	-	記事種以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
234	80.80	80.90	φ3~5mmの粘土化で白濁化した長石斑晶が多い。		-	-			80.80	80.90	80.80~80.90m:径3~5mmの粘土化で白濁化した長石斑晶が多い。	-	
235	81.00	81.20	φ10~20mmの硬さDの岩片と砕いた砂質土の基質からなる。基質中に幅1~3mmの軟弱粘土層が分布。		81.00	81.20	φ10~20mmの硬さDの岩片と砕いた砂質土の基質からなる。基質中に幅1~3mmの軟弱白色粘土層が分布。		81.00	81.20	81.00~81.20m:径10~20mmの硬さDの岩片と砕いた砂質土の基質からなる。基質中に幅1~3mmの軟弱白色粘土層を挟む。		
236	01.20	01.42	破砕帯		01.20	01.42	破砕部						
237	81.20	81.30	Hb 上端40°、下端35°で上端は一部湾曲し、下端は直線的でシャープに連続。φ1~2mmの石英粒とφ3~15mmの粘土化したGp岩片を多く含むやや硬質な粘土層で、φ1.2~φ1.27mmにふい黄褐色(10YR7.4)、φ1.27~φ1.30mmは淡黄褐色(10YR8.2)を量する。厚さ50~60mm。		81.20	81.30	Hb 粘土混じり塊状破砕部 上端40°、下端35°で、上端は一部湾曲し、下端は直線的でシャープに連続。φ1~2mmの石英粒とφ3~15mmの粘土化したGp岩片を多く含むやや硬質な粘土混じり塊状で、φ1.20~φ1.27mmにふい黄褐色(10YR7.4)、φ1.27~φ1.30mmは淡黄褐色(10YR8.2)を量する。厚さ50~60mm。 含まれる細粒部は割れ目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
238	81.30	81.30	Hc-1 (主せん断面) 厚さ2~4mm、35°の軟弱な灰赤色(2.5YR5/2)粘土。		81.30	81.30	Hc-1 (最新活動面) 厚さ2~4mm、35°の軟弱な灰赤色(2.5YR5/2)粘土。 連続性・直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。		81.20	81.42			
239	81.30	81.42	Hb 上端35°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや湾曲して連続し、灰赤~白色の幅1mmの軟弱粘土を伴う。φ1~3mm石英粒とφ5~20mmの一部粘土化、一部硬さDのGp岩片を多く含む硬質粘土で、φ1.37mm以下までは硬質が増加し、H層を量する。粘土は粘っている。色調は、上端10mmは淡赤橙(2.5YR7/3)、これ以外にはふい黄褐色(10YR7/3)である。厚さは120mm(コア長)。		81.30	81.42	Hb 粘土混じり塊状破砕部 上端35°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや湾曲して連続し、灰赤~白色の幅1mmの軟弱粘土を伴う。φ1~3mm石英粒とφ5~20mmの一部粘土化、一部硬さDのGp岩片を多く含む硬質粘土で、φ1.37mm以下までは硬質が増加する。やや軟質、含まれる細粒部は割れ目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 色調は、上端側10mmは淡赤橙(2.5YR7/3)、これ以外にはふい黄褐色(10YR7/3)である。厚さは120mm(コア長)。						
240	81.20	81.30	(破砕度区分)Hb		81.20	81.30	(破砕度区分)Hb		81.20	81.30	(破砕度区分)Hb		
241	81.30	81.42	(破砕度区分)Hb		81.30	81.42	(破砕度区分)Hb		81.30	81.42	(破砕度区分)Hb		
242	01.42	02.00	50~70° 割れ目、低密着割れ目主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70° 割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が多く、途中で連続するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土層を挟む。		01.42	02.00	50~70° 割れ目、低密着割れ目主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70° 割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が多く、途中で連続するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土層を挟む。		01.42	02.00	81.42~82.88m:傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70°の割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が多く、途中で連続するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土層を挟む。		
243	81.42	81.58	割れ目ぞいにマンガン鉱染うけ黒褐色化する。		81.42	81.58	割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。		81.42	82.88	81.42~81.58m、82.27~82.88m:割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	記事内容が同じであるため、82.27~82.88mの記事を含めて記載した。	
244	82.27	82.88	割れ目ぞいにマンガン鉱染うけ黒褐色化する。		82.27	82.88	割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。		-	-	-	上記でまとめた書きため記載しない	
245	82.45	82.45	70°のせん断性割れ目で、交差する割れ目の一部を切る(交差量3mm程度)。割れ目には幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土層を挟む。		82.45	82.45	70°のせん断性割れ目で、これにはほぼ直交する割れ目は止まっている。斜交する割れ目の一部を切る(交差量5mm程度)。割れ目には幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土層を不連続に挟む。割れ目周辺の岩質には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		82.45	82.45	82.45m:傾斜70°の割れ目で、これにはほぼ直交する割れ目は止まっている。割れ目には幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土層を不連続に挟む。割れ目周辺の岩質には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
246	82.88	83.92	上位に比べ硬質で、割れ目も少なくなる。また、φ5~8mmと大型の粘土化により白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶もφ5~10mmと従来より大型化する。高心も高くなり、また、粘土化部や粘土層は粘りが分布しない。40~70° 割れ目が主体で一部で割れ目ぞいにφ2~10mm程度で岩片が細片化するが、砂や粘土は含まれない。		82.88	83.92	上位に比べ硬質で、割れ目も少なくなる。また、φ5~8mmと大型の粘土化により白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶もφ5~10mmと従来より大型化する。高心も高くなり、また、粘土化部や粘土層は粘りが分布しない。40~70° 割れ目が主体で一部で割れ目ぞいにφ2~10mm程度で岩片が細片化するが、砂や粘土は含まれない。		82.88	83.92	82.88~83.02m:径6~8mmの大型の粘土化で白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶も径5~10mmで大型化する。粘土化部や粘土層は粘りが分布する。高心も高くなり、また、粘土化部や粘土層は粘りが分布しない。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部の割れ目ぞいに径2~10mm程度の岩片に細片化するが、砂や粘土は含まれない。	記事種以外から読み取れる硬さ、割れ目の多寡、風化の情報は記載しない	
247	82.88	87.14	(割れ目状態)ランク		82.88	87.14	(割れ目状態)ランク		82.88	87.14	(割れ目状態)ランク		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

No.	コア観察カード		記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか?	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	
248	82.88	83.92	<input checked="" type="checkbox"/>	(岩級区分欄)CL	82.88	83.92	(岩級区分欄)OM	(岩級区分欄)OM	82.88	83.92	(岩級区分欄)OM	-	-
249	83.92	87.14	<input checked="" type="checkbox"/>	上位より割れ目が多くなる。硬さは「O」で同じ。30~60°の割れ目と、これらに斜交→直交する30~70°の割れ目を主体とする。多数分布する低密着割れ目も同じ角度分布である。割れ目の一部では深く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず。粘土系を挟む割れ目も少ない。φ3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でこく黒褐色化し、コア表面の一部はマンガン鉱染により径2~5mmの斑点状に黒褐色化。	83.92	87.14	上位より割れ目が多くなる。硬さは「O」で同じ。30~60°の割れ目と、これらに斜交→直交する30~70°の割れ目を主体とする。多数分布する低密着割れ目も同じ角度分布である。割れ目の一部では深く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず。粘土系を挟む割れ目も少ない。φ3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でこく黒褐色化し、コア表面の一部はマンガン鉱染により径2~5mmの斑点状に黒褐色化。	83.92~87.14m:傾斜30~60°の割れ目と、これらに斜交→直交する30~70°の割れ目を主体とする。同傾斜の底密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部では深く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず。粘土系を挟む割れ目も少ない。径3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でこく黒褐色化し、コア表面の一部はマンガン鉱染により径2~5mmの斑点状に黒褐色化する。	83.92	87.14	83.92~87.14m:傾斜30~60°の割れ目と、これらに斜交→直交する30~70°の割れ目を主体とする。同傾斜の底密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部では深く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず。粘土系を挟む割れ目も少ない。径3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でこく黒褐色化し、コア表面の一部はマンガン鉱染により径2~5mmの斑点状に黒褐色化する。	-	記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多寡の情報は記載しない
250	85.00	89.91	-	(破砕度区分欄)CL	85.00	89.91	(破砕度区分欄)-	(破砕度区分欄)-	85.00	89.91	(破砕度区分欄)-	-	-
251	85.48	85.49	-	85.48m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色~橙色粘土系を挟む。	85.48	85.49	85.48m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色~橙色粘土系を挟む。	85.48m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色~橙色粘土系を挟む。	85.48	85.49	85.48m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色~橙色粘土系を挟む。	-	-
252	85.53	85.53	-	65°、幅3~5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-	65°、幅3~5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	85.53	85.53	65°、幅3~5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-
253	85.65	85.68	-	20°と50°の割れ目が交差し、φ5~15mmの岩片に砕けているが、粘土は伴わない。	85.65	85.68	20°と50°の割れ目が交差し、φ5~15mmの岩片に砕けているが、粘土は伴わない。	20°と50°の割れ目が交差し、φ5~15mmの岩片に砕けているが、粘土は伴わない。	85.65	85.68	85.65~85.68m:傾斜20°と50°の割れ目が交差し、径5~15mmの岩片状を呈する。粘土は伴わない。	-	-
254	85.69	85.93	-	(コアの形状欄)Vランク	85.69	85.93	(コアの形状欄)IVランク	(コアの形状欄)IVランク	85.69	85.93	(コアの形状欄)IVランク	-	-
255	86.04	86.43	-	86.04m・40°、86.30m・60°、86.43m・55°の各割れ目自体に幅2~5mm程度砂状化する。	86.04	86.43	86.04m・40°、86.30m・60°、86.43m・55°の各割れ目自体に幅2~5mm程度砂状化する。	86.04m・40°、86.30m・60°、86.43m・55°の各割れ目自体に幅2~5mm程度砂状化する。	86.04	86.43	86.04m・40°、86.30m・60°、86.43m・55°の各割れ目自体に幅2~5mm程度砂状化する。	-	-
256	86.43	86.70	-	(コアの形状欄)Vランク	86.43	86.70	(コアの形状欄)IVランク	(コアの形状欄)IVランク	86.43	86.70	(コアの形状欄)IVランク	-	-
257	87.14	88.35	-	φ5~40mmの硬さCの岩片と砕けた岩片側の砂質土の基質からなる角礫構造で、基質中には岩片間を埋むように幅1~2mmの軟弱な白色粘土系が分布するが、連続性は長さ50mm未満と短い。岩片集合部には10~30°と60~80°の2系の割れ目系が残留する。	87.14	88.28	φ5~40mmの硬さCの岩片と砕けた岩片側の砂質土の基質からなる角礫構造で、基質中には岩片間を埋むように幅1~2mmの軟弱な白色粘土系が分布するが、連続性は長さ50mm未満と短い。岩片集合部には10~30°と60~80°の2系の割れ目系が残留する。	φ5~40mmの硬さCの岩片と砕けた岩片側の砂質土の基質からなる角礫構造で、基質中には岩片間を埋むように幅1~2mmの軟弱な白色粘土系が分布するが、長さ50mm未満で連続性は悪い。岩片集合部には傾斜10~30°と60~80°の2系統の割れ目が残留する。	87.14	88.28	87.14~88.28m:径5~40mmの硬さCの岩片と砕けた岩片側の砂質土の基質からなる角礫構造を呈し、基質中には岩片間を埋むように幅1~2mmの軟弱な白色粘土系が分布するが、長さ50mm未満で連続性は悪い。岩片集合部には傾斜10~30°と60~80°の2系統の割れ目が残留する。	-	-
258	87.14	87.69	-	(風化欄)γランク	87.14	87.69	(風化欄)δランク	(風化欄)δランク	87.14	87.69	(風化欄)δランク	-	-
259	87.14	88.18	-	(割れ目状態欄)αランク	87.14	88.18	(割れ目状態欄)αランク	(割れ目状態欄)αランク	87.14	88.18	(割れ目状態欄)αランク	-	-
260	87.69	87.84	-	(コアの形状欄)VIランク	87.69	87.84	(コアの形状欄)IVランク	(コアの形状欄)IVランク	87.69	87.84	(コアの形状欄)IVランク	-	-
261	87.69	88.09	-	(コアの硬さ欄)Eランク	87.69	88.09	(コアの硬さ欄)Cランク	(コアの硬さ欄)Cランク	87.69	88.09	(コアの硬さ欄)Cランク	-	-
262	88.72	88.84	-	硬質な中石として残留する。	87.69	87.84	硬質な中石として残留する。	硬質な中石として残留する。	87.69	87.84	87.69~87.84m:硬質部が中石状に残留する。	-	-
263	87.84	88.18	-	(コアの形状欄)VIランク	87.84	88.18	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	87.84	88.18	(コアの形状欄)Vランク	-	-
264	88.00	88.35	-	基質部は殆んど分布しないが、岩片間はφ5mm前後の破砕岩片状を呈する。	88.00	88.35	基質部は殆んど分布しないが、岩片間はφ5mm前後の破砕岩片状を呈する。	88.00~88.35m:基質部は殆んど分布しないが、径5mm前後の岩片状を呈する。	88.00	88.35	88.00~88.35m:基質部は殆んど分布しないが、径5mm前後の岩片状を呈する。	-	-
265	88.09	88.18	-	(コアの硬さ欄)Eランク	88.09	88.18	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Dランク	88.09	88.18	(コアの硬さ欄)Dランク	-	-
266	88.18	88.28	-	(風化欄)γランク	88.18	88.28	(風化欄)δランク	(風化欄)δランク	88.18	88.28	(風化欄)δランク	-	-
267	88.28	88.35	-	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)VIランク (割れ目状態欄)αランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)D	88.28	88.35	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)αランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)CL	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)αランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)CL	88.28	88.35	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)αランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)CL	-	-
268	88.35	89.68	-	(実質欄)βランク	88.35	89.68	(実質欄)βランク	(実質欄)βランク	88.35	89.68	(実質欄)βランク	-	-
269	88.35	90.00	-	(風化欄)γランク	88.35	90.00	(風化欄)γランク	(風化欄)γランク	88.35	90.00	(風化欄)γランク	-	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
ト端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	適正化した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
270	88.35	89.91	30~40°とこれに斜交~直交する60°の割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟むようになる。特に89.38m以深で分布が多い。	88.28	89.91	30~40°とこれに斜交~直交する60°の割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟むようになる。特に、89.68m以深で分布が多い。	88.28	89.91	88.28~89.91m:傾斜30~40°とこれに斜交~直交する傾斜60°の割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。特に、89.68m以深で粘土脈を多く含む。
271	88.50	89.31	(割れ目状態欄)Cランク	88.50	89.31	(割れ目状態欄)Cランク	88.50	89.31	(割れ目状態欄)Cランク
272	88.72	89.22	(コアの形状欄)Vランク	88.72	89.22	(コアの形状欄)IVランク	88.72	89.22	(コアの形状欄)IVランク
273	89.31	89.31	50°はせん断性割れ目で、直線的でシャープに連続し、交差する割れ目を切っている(変位量2~5mm右左)。	89.31	89.31	40°のはせん断性割れ目で、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。切っている(変位量2~3mm右左)。割れ目に細粒部の存在は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	89.31	89.31	89.31m:傾斜40°の割れ目で、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目に細粒部の存在は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
274	89.38	89.73	(コアの硬さ欄)Dランク	89.38	89.73	(コアの硬さ欄)Cランク	89.38	89.73	(コアの硬さ欄)Cランク
275	89.50	89.68	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク	89.50	89.68	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク	89.50	89.68	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク
276	89.38	89.38	55° 割れ目に幅0.5~2mmの明赤灰色(2.5YR 7/2)の軟質粘土を挟み、下層側は89.44mまで(変位40mm)粘土化が進み軟質化。	89.38	89.38	55° 割れ目に幅0.5~2mmの明赤灰色(2.5YR 7/2)の軟質粘土を挟み、下層側は89.44mまで(変位40mm)粘土化が進み軟質化。	89.38	89.38	89.38m:傾斜55°で幅0.5~2mmの軟質な明赤灰色粘土を挟み、下層側は89.44mまで変位40mm程度で粘土化が進み軟質化する。
277			破砕帯 Hc-2(主せん断面:89.91m)	89.91	89.95	破砕帯 Hc-2(主せん断面:89.91m)	89.91	89.95	●89.91~89.95m:破砕帯 89.91~89.95m:軟質粘土状部(Hc) 傾斜45°で直線的に、下層45°で波打って連続。径5~10mmの岩片を30%程度含む。やや軟質、明赤灰色を呈する。幅12~15mm。 89.93~89.95m:粘土状部(Hc-1) 上層45°で波打って、下層45°で直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒をわずかに含む。軟質、明赤灰色を呈する。幅2~5mm。
278	89.91	89.95	上層50°、下層45°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒とφ5mmの大半が粘土化したG ₀ 岩片を含む隙間り粘土状で、粘土は軟弱~やや硬質である。明赤灰色(2.5YR 7/2)を呈し、厚さ15~20mm。	89.91	89.93	Hb:軟質粘土状破砕部 上層50°で直線的に、下層45°で波打って連続。径5~10mmの岩片を30%程度含む明赤灰色粘土からなる。やや軟質で、細粒部の連続性・直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅12~15mm。	89.91	89.95	
279				89.93	89.95	Hc-1 粘土状破砕部(最新活動面89.95m) 上層45°で波打って、下層45°で直線的でシャープに連続。 径1~2mmの石英粒をわずかに含む軟質の明赤灰色粘土からなる。連続性・直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅2~5mm。			
280	89.91	89.93	(破砕度区分欄)Hc-2	89.91	89.93	(破砕度区分欄)Hb	89.91	89.93	(破砕度区分)Hb
281	89.93	89.95	(破砕度区分欄)Hc-2	89.93	89.95	(破砕度区分欄)Hc-1	89.93	89.95	(破砕度区分)Hc-1
282	89.95	89.98	硬さ「C」の中石である。	-	-	-	89.95	89.98	89.95~89.98m:硬さ「C」の中石である。
283	89.98	90.00	上層23°、下層25°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒とφ5mmの大半が粘土化したG ₀ 岩片を含む。隙間り粘土状で、粘土は軟弱~やや硬質である。灰白色(10YR 8/1)を呈し、厚さは15~18mm。	89.98	90.00	上層23°、下層25°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒とφ5mmの大半が粘土化したG ₀ 岩片を含む。隙間り粘土状で、粘土は軟弱~やや硬質である。灰白色(10YR 8/1)を呈し、厚さは15~18mm。	89.98	90.00	89.98~90.00m:上層23°、下層25°でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む隙間り粘土状を呈する。粘土は軟質~やや硬質である。灰白色である。幅15~18mmである。
284	90.00	90.26	30~50°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目からなり、これらの割れ目に囲まれ、φ5~50mmの硬さ「C」の岩片が多い。割れ目には粘土化部や粘土脈は含まれない。	90.00	90.26	30~50°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目からなり、これらの割れ目に囲まれ、φ5~50mmの硬さ「C」の岩片が多い。割れ目には粘土化部や粘土脈は含まれない。	90.00	90.26	90.00~90.26m:傾斜30~50°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、径5~50mmの硬さ「C」の岩片状を呈することが多い。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1			コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事が削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
285	90.26	90.84	破砕帯	90.29	90.84	破砕部			●90.26～90.84m:破砕部 90.26～90.31m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°で波打ち、下端70°で直線的にシャープに連続。径5～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟質な白色粘土層が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅19～20mm。 90.31～90.37m:粘土質塊状部(Hb) 上端70°、下端70°でともにほぼ直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒とほぼ粘土化した径5～10mmの花崗斑岩の岩片を多く含む。やや軟質。上端には幅1～2mmの灰赤色軟質粘土層を伴う。灰白色主体で塊状に灰赤色を呈する。幅20～35mm。 90.37～90.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端70°、下端75°でともにほぼ直線的でシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5～30mmのGp岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟質な白～灰赤色粘土層が分布する。粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)～灰白色(7.5Y 7/1)を呈する。厚さは280mm(コア長)。	-硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
286	90.26	90.31	H) 上端50°、下端70°で、上端は波打ち、下端は直線的でシャープに連続。径5～10mmの大半が粘土化したGp岩片と岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟質な白色粘土層が分布。粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。厚さは15～20mm。	90.26	90.31	H) 上端50°、下端70°で、上端は波打ち、下端は直線的でシャープに連続。径5～10mmの大半が粘土化したGp岩片と岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟質な白色粘土層が分布。粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。厚さは15～20mm。 やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
287	90.31	90.37	Hb 上端70°、下端70°で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。径1～2mm石英粒とほぼ粘土化した径5～10mmのGp岩片を多く含む硬質粘土と粘土は、上端には幅1～2mmの灰赤色軟質粘土層を伴う。色調は灰白色(10YR 8/2)主体で塊状に灰赤色(2.5YR 6/1)を伴う。厚さは20～35mm。	90.31	90.37	Hb 粘土質塊状破砕部 上端70°、下端70°で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。径1～2mm石英粒とほぼ粘土化した径5～10mmGpの岩片を多く含む粘土質塊状でやや軟質である。上端には幅1～2mmの灰赤色軟質粘土層を伴う。色調は灰白色(10YR 8/2)主体で塊状に灰赤色(2.5YR 6/1)を伴う。厚さは20～35mm。 含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
288	90.37	90.66	H) 上端70°、下端75°で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5～30mmのGp岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟質な白～灰赤色粘土層が分布する。粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)～灰白色(7.5Y 7/1)を呈する。厚さは280mm(コア長)。	90.37	90.66	H) 上端70°、下端75°で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5～30mmのGp岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟質な白～灰赤色粘土層が分布する。粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)～灰白色(7.5Y 7/1)を呈する。厚さは280mm(コア長)。 やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	90.26	90.84		
289	90.66	90.66	Hc-1(主せん断面) 75°。幅2mmで直線的でシャープに連続する。灰赤色(2.5YR 6/1)を呈する。軟質な粘土。	90.66	90.66	Hc-1(最新活動面) 75°。幅2mmで直線的でシャープに連続する。灰赤色(2.5YR 6/1)を呈する。軟質な粘土。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
290	90.66	90.72	Hb 上端75°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打ちながら連続。径1～2mm石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化したGp岩片を多く含む硬質粘土と、粘土は、やや硬い。灰白色(7.5Y 7/1)を呈し、厚さは6～20mmと膨縮する。	90.66	90.72	Hb 粘土質塊状部 上端75°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打ちながら連続。径1～2mm石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化したGp岩片を多く含む硬質粘土と、軟質である。灰白色(7.5Y 7/1)を呈し、厚さは6～20mmと膨縮する。 含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
291	90.72	90.84	H) 上端60°、下端50°で、上端は波打って、下端はほぼ直線的でシャープに連続。径5～20mmの一部硬質塊が残留するが、概ね粘土化したGp岩片と径2～3mmの石英、長石粒、Gp岩片を多く含む軟質な粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。厚さは170mm(コア長)。	90.72	90.84	H) 上端60°、下端50°で、上端は波打って、下端はほぼ直線的でシャープに連続。径5～20mmの一部硬質塊が残留するが、概ね粘土化したGp岩片と径2～3mmの石英、長石粒、Gp岩片を多く含む軟質な粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。厚さは170mm(コア長)。 やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
292	90.26	90.72	(色調欄)灰	90.26	90.72	(色調欄)Hb/灰白	90.26	90.72	(色調欄)灰白	
293	90.84	91.26	90～70° 割れ目が主体で突厚20～40mm間隔で平行に分布。これらの割れ目に斜交～直交する40～50° 割れ目も多い。前者はせん断性割れ目で後者を切っている(変位量≒5mm±)。割れ目の一部には断片約1～0.5mmの白色軟質粘土を含む。	90.84	91.26	60～70° 割れ目が主体で突厚20～40mm間隔で平行に分布。これらの割れ目に斜交～直交する40～50° 割れ目も多い。91.21m付近では、前者はせん断性割れ目で後者を止めている場合と判断する機会が見られる。を切っている(変位量≒5mm±)。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの白色軟質粘土を挟む。割れ目周辺の岩面には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	90.84	91.26	90.84～91.26m:傾斜60～70°の割れ目が20～40mm間隔で平行に分布する。これらの割れ目に斜交～直交する傾斜40～50°の割れ目も多い。91.21m付近では、前者は後者を止めている場合と判断する機会が見られる。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩面には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
294	90.84	91.26	(変質欄)3ランク	90.84	91.26	(変質欄)2ランク	90.84	91.26	(変質欄)2ランク	
295	90.84	91.52	(岩線区分欄)D	90.84	91.52	(岩線区分欄)CL	90.84	91.52	(岩線区分欄)CL	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
296	91.29	91.52	破砕帯	91.29	91.52	破砕帯			●91.26~91.52m:破砕帯 91.29~91.31m:粘土混じり破砕帯(H) 上端60°で直線的にシャープに、下端63°で湾曲して連続、径1~3mmの石英、径5~10mmの花崗斑岩の粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土脈を挟む。やや軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅20~40mm。 91.31~91.33m:隙混じり粘土状部(Hc-2) 上端63°で湾曲し、下端63°で波打って連続、径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を包む。軟質、赤灰色を呈する。幅5~15mmと膨縮する。 91.33~91.52m:粘土混じり(一部粘土質)岩片状部(H) 上端63°で波打る。下端30°で不明瞭に連続、粘土化した、または硬質な径5~15mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間には白~灰赤色軟質粘土が分布する。粘土混じり(一部粘土質)岩片状部(一部は)にぶい黄褐色~明赤灰色(2.5YR 7/1)を呈する。厚さ20~40mm。			・種数、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる種類の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
297	91.26	91.31	Hb 上端60°、下端63°で、上端は直線的でシャープに、下端は湾曲して連続、径1~3mmの石英、径5~10mmのGp粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土脈を挟む。やや軟質。換算する組織はほとんど連続性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。にぶい黄褐色(10YR 7/4)を呈し、厚さ20~40mm。	91.26	91.31	Hj 粘土混じり破砕帯 上端60°、下端63°で、上端は直線的でシャープに、下端は湾曲して連続、径1~3mmの石英、径5~10mmのGp粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土脈を挟む。やや軟質。換算する組織はほとんど連続性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。にぶい黄褐色(10YR 7/4)を呈し、厚さ20~40mm。						
298	91.31	91.33	Hc-1 (主せん断面・91.31m) 上端63°、下端63°で、上端は湾曲し、下端は波打って連続、径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化したGp岩片を包む隙混じり粘土で、粘土はにぶい黄褐色、赤灰色(2.5YR 6/1)を呈する。厚さ8~15mmと膨縮する。	91.31	91.33	Hc-2 (最新活動面・91.31m)(最も直線的) 上端63°、下端63°で、上端は湾曲し、下端は波打って連続、径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化したGp岩片を包む軟質隙混じり粘土、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。赤灰色(2.5YR 6/1)を呈する。厚さ8~15mmと膨縮する。	91.26	91.52				
299	91.33	91.52	Hj 上端63°、下端30°で、上端は波打って、下端は不明瞭に連続、径5~15mmの粘土と硬質なGp岩片からなり、岩片間には白色~灰赤色軟質粘土が分布する。粘土混じり(一部粘土質)岩片状部(一部は)にぶい黄褐色~明赤灰色(2.5YR 7/1)を呈す。厚さは190mm(コア長)。	91.33	91.52	Hj 上端63°、下端30°で、上端は波打って、下端は不明瞭に連続、径5~15mmの粘土と硬質なGp岩片からなり、岩片間には白色~灰赤色軟質粘土が分布する。粘土混じり(一部粘土質)岩片状部(一部は)にぶい黄褐色~明赤灰色(2.5YR 7/1)を呈する。厚さは190mm(コア長)。 40~60軟質。含まれる細粒部は細目粒に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
300	91.26	91.31	(破砕度区分)Hb	91.26	91.31	(破砕度区分)Hj	91.26	91.31	(破砕度区分)Hj	-		
301	91.31	91.33	(破砕度区分)Hc-1	91.31	91.33	(破砕度区分)Hc-2	91.31	91.33	(破砕度区分)Hc-2	-		
302	91.26	91.52	(割れ目状態)クラック	91.26	91.52	(割れ目状態)クラック	91.26	91.52	(割れ目状態)クラック	-		
303	91.52	92.00	硬さDのない径φ10~30mm岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mはφ5~10mmに砕けている。	91.52	92.00	硬さDのない、Cのφ10~30mm岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは断面割れ目により、φ5~10mmに砕けている。	91.52	92.00	91.52~92.00m:硬さDのない[C]の径10~30mmの岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。傾斜20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは断面割れ目により、径5~10mmに砕けている。			
304	92.00	92.15	92.00~92.15m間は、上位より更に岩片は細片化し、径5~10mm主体で、かつ、岩片自身も粘土化することが多い。岩片間を幅1~3mmの軟質白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。	92.00	92.15	92.00~92.15m間は、上位より更に岩片は細片化し、径5~10mm主体で、かつ、岩片自身も粘土化することが多い。岩片間を幅1~3mmの軟質白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。	92.00	92.15	92.00~92.15m:上位より岩片は細片化し、径5~10mmの岩片が主体で粘土化することが多い。岩片間を幅1~3mmの軟質白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。			
305	92.15	-	92.15m以深では更に粘土化が進み、径5°、幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体として、色調はにぶい黄褐色が主体である。	92.15	-	92.15m以深では更に粘土化が進み、傾斜5°で幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体として、色調はにぶい黄褐色が主体である。	92.15	-	92.15m以深では更に粘土化が進み、傾斜5°で幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体ににぶい黄褐色を呈する。			
306	92.19	92.94	92.38~92.66mを除き、原岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化している。幅1~2mmの軟質白色粘土脈を伴っている。	92.19	92.94	92.40~92.66mを除き、原岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化している。幅1~2mmの軟質白色粘土脈を伴っている。	92.19	92.94	92.10~92.04m、92.48~92.66mを除き、原岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化している。幅1~2mmの軟質白色粘土脈を伴う。			
307	92.19	93.12	(家質層)クラック	92.19	93.12	(家質層)クラック	92.19	93.12	(家質層)クラック	-		
308	93.12	93.43	(割れ目状態)クラック	93.12	93.43	(割れ目状態)クラック	93.12	93.43	(割れ目状態)クラック	-		
309	92.38	92.66	30~40°とこれに斜交する60~70°の割れ目の一部が残留し、その一部に軟質白色粘土をはさむ。	92.48	92.66	30~40°とこれに斜交する60~70°の割れ目の一部が残留し、その一部に軟質白色粘土を挟む。	92.48	92.66	92.48~92.66m:傾斜30~40°とこれに斜交する60~70°の割れ目の一部が残留し、その一部に軟質白色粘土を挟む。			
310	92.31	92.41	粘土量が增大している。	92.31	92.41	粘土量が增大している。 コア掘削時の供回りによる機頭部を含む。	92.31	92.41	92.31~92.41m:コア掘削時の供回りによる機頭で粘土化する。			
311	92.94	93.12	硬さCの岩片が主体で、10~20°とこれに斜交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの白色軟質粘土をはさむ。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。	92.94	93.12	硬さCの岩片が主体で、10~20°とこれに斜交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの白色軟質粘土を挟む。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。	92.94	93.12	92.94~93.12m:傾斜10~20°とこれに斜交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの軟質白色粘土を挟む。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。	・記事種以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート (H24-D1-1)

孔名: H24-D1-1			コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
312	93.12	93.24	破砕帯	93.12	93.24	破砕部			<p>●93.12～93.24m: 破砕部 93.12～93.20m: 粘土質礫状～粘土混じり礫状部(Hc) 上端55°, 下端30°で両者とも直線的でシヤープに連続。径1～3mmの石 英粒。粘土化した径5～10mmの花崗斑岩の岩片主体で岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質～やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅50～100mmと膨脹する。 93.20m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜30°で幅2mmのやや軟質な灰色粘土となる。ほぼ直線的に連続する。 93.20～93.24m: 粘土混じり礫状部(Hc) 上端30° 下端55°アハムに直線的に連続する。径1～2mmの石英粒粘土化した径5～10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質～やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅30mm。</p>	
313	93.12	93.20	Hb 上端55°, 下端30°で、両者とも直線的でシヤープに連続。径1～3mmの石英粒。粘土化した径5～10mmのGp岩片を多く含む。やや締った礫質粘土で、にぶい黄褐色(10YR 7/3)を呈する。厚さ50～100mmと膨脹する。	93.12	93.20	Hb 粘土質礫状～粘土混じり礫状破砕部 上端55°, 下端30°で、両者とも直線的でシヤープに連続。径1～3mmの石英粒。粘土化した径5～10mmのGp岩片主体で岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。にぶい黄褐色(10YR 7/3)を呈する。厚さ50～100mmと膨脹する。やや軟質～やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	93.12	93.24		
314	93.20	93.20	Hc-1 (主せん断面) 30°・幅2mmでほぼ直線的に連続する。灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する軟弱な粘土。	93.20	93.20	Hc-1 (最新活動面) 30°・幅2mmでほぼ直線的に連続する。灰赤色(2.5YR 6/2)を呈するやや軟質な粘土。	93.12	93.24		
315	93.20	93.24	Hb 上端30°, 下端55°で、両者とも直線的に連続する。径1～2mmの石英粒。粘土化した径5～10mmのGp岩片を多く含む。やや締った礫質粘土で、にぶい黄褐色(10YR 7/3)を呈する。厚さ30mm。	93.20	93.24	Hb 粘土混じり礫状破砕部 上端30°, 下端55°で、両者とも直線的に連続する。径1～2mmの石英粒。粘土化した径5～10mmのGp岩片からなり、岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。にぶい黄褐色(10YR 7/3)を呈する。厚さ30mm。やや軟質～やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	93.20	93.24		
316	93.20	93.24	(破砕度区分欄)Hb	93.20	93.24	(破砕度区分欄)Hb	93.20	93.24		
317	93.24	93.43	硬さ[C]ないし[D]の岩片が残留するが、岩片間の基質は著しく軟化している。基質中には幅1～2mmの白色軟弱粘土層が多く分布する。	93.24	93.43	硬さ[C]ないし[D]の岩片が残留するが、岩片間の基質は著しく軟化している。基質中には幅1～2mmの白色軟弱粘土層が多く分布する。	93.24	93.43		
318	92.41	92.43	一部は軟弱な白色粘土化部。	93.41	93.43	一部は軟弱な白色粘土化部。	93.41	93.43		
319	93.43	94.40	94.00～94.14mは風化により著しく軟化するが、これ以外には硬さ[C]の主体で、割れ目深さ0.5～5mmの軟弱な白色粘土層を呈し、特に、94.14m以深では、70～80°の粘土層が多数分布する。割れ目は10～30°と70～80°が主体で、上記の粘土層のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。	93.43	94.40	94.00～94.14mは風化により不規則な形状で著しく軟化するが、これ以外には硬さ[C]の主体で、割れ目深さ0.5～5mmの軟弱な白色粘土層を挟む。特に、94.14m以深では、70～80°の粘土層が多数分布する。割れ目は10～30°と70～80°が主体で、上記の粘土層のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。	93.43	94.40		<p>94.00～94.40m: 94.00～94.14mは風化により不規則な形状で著しく軟化するが、これ以外はやや硬質である。割れ目深さ0.5～5mmの軟弱な白色粘土層を挟む。特に、94.14m以深では、傾斜70～80°の粘土層が多数分布する。傾斜10～30°と70～80°の割れ目が主体で、上記の粘土層のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。</p>
320	94.40	96.23	概ね著しく軟化した硬さEで、一部で硬さ[D]、[C]の径10～30mm岩片を食んでいる。岩組織と割れ目も大半が消滅しているが、94.76m・55°・95.07m・55°は直線的でシヤープに連続するせん断性割れ目で、両者とも幅1～2mmの軟弱な白色粘土層を伴い、面を境として岩相が異なっている(数値不明)。面を境として岩相が異なっている(数値不明)。	94.40	96.23	概ね著しく軟化した硬さEで、一部で硬さ[D]、[C]の径10～30mm岩片を食んでいる。岩組織と割れ目も大半が消滅しているが、94.76m・55°・95.07m・55°は直線的でシヤープに連続するせん断性割れ目で、前者は幅0.5～2mmの軟弱な白色粘土を不連続的に伴い、後者は幅1～2mmの軟弱な灰色粘土を連続的に伴う。両者とも面を境として岩相の程度が異なっている(数値不明)。いずれの割れ目周辺には原岩組織が認められる。	94.40	96.23		94.40～95.23m: 著しく軟質化し、一部で硬さ[C]、[D]の径10～30mmの岩片を含む。94.76m・55°と95.07m・55°の割れ目は直線的でシヤープに連続する。前者は幅0.5～2mmの軟弱な白色粘土を不連続的に伴い、後者は幅1～2mmの軟弱な灰色粘土を連続的に伴う。両者とも面を境として岩相の程度が異なる。いずれの割れ目周辺には原岩組織が認められる。
321	94.40	95.23	(割れ目状態欄)○ランク	94.40	95.23	(割れ目状態欄)○ランク	94.40	95.23		(割れ目状態欄)○ランク
322	95.07	95.14	粘土化進み、上下よりも粘土量が増加している。	95.07	95.14	粘土化進み、上下よりも粘土量が増加している。	95.07	95.14	95.07～95.14m: 粘土化が進み、上下よりも粘土量が多い。	
323	95.23	96.46	97.80～98.70m間が風化で軟化し、硬さ[D]となる以外は硬さ[C]で、全区間コア形状Vである。割れ目は20～50°。割れ目が主体で、これらに斜交～直交する30～50°。割れ目も分布する。	96.23	96.46	97.80～98.70m間が軟質で軟質化し、硬さ[D]となる以外は硬さ[C]である。全区間コア形状Vである。割れ目は20～50°。割れ目が主体で、これらに斜交～直交する30～50°。割れ目も分布する。	96.23	96.46	96.23～96.46m: 97.80～98.70m間が軟質で軟質化する以外は、やや硬質である。傾斜20～50°の割れ目が主体で、これらに斜交～直交する30～50°の割れ目も分布する。	
324	95.23	95.51	(コアの形状欄)IVランク	95.23	95.51	(コアの形状欄)IVランク	95.23	95.51	(コアの形状欄)IVランク	
325	95.23	96.28	(割れ目状態欄)○ランク	95.23	96.28	(割れ目状態欄)○ランク	95.23	96.28	(割れ目状態欄)○ランク	
326	96.12	96.28	(コアの形状欄)Vランク	96.12	96.28	(コアの形状欄)IVランク	96.12	96.28	(コアの形状欄)IVランク	
327	97.80	98.70	割れ目深さ1に砂状化し、幅0.5～1mmの軟弱な白色～灰赤色粘土層を呈し、これ以外の区間(硬さCの区間)では、砂状化や粘土層交代も少ない。	97.80	98.70	割れ目深さ1に砂状化し、幅0.5～1mmの軟弱な白色～灰赤色粘土層を挟むが、これ以外の区間(硬さCの区間)では、砂状化や粘土層交代も少ない。	97.80	98.70	97.80～98.70m: 割れ目深さ1に砂状化し、幅0.5～1mmの軟弱な白～灰赤色粘土層を挟む。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

		コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追加した理由 (コア観察カードからの変更点)
		記事		記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		選定した記事内容		
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
328	96.28 96.79	各割れ目ぞいに砂状化することが多く、また、割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土層を挟むことが多い。		96.28	96.48	各割れ目ぞいに砂状化することが多く、また、割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土層を挟むことが多い。		96.28~96.48m:各割れ目ぞいに砂状化し、割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土層を挟むことが多い。
329	96.28 96.79	(変質種)3ランク		96.28	96.79	(変質種)2ランク		(変質種)2ランク
330	96.28 98.70	(風化種)δランク		96.28	98.70	(風化種)γランク		(風化種)γランク
331	96.48 97.42	(割れ目状態種)αランク		96.48	97.42	(割れ目状態種)βランク		(割れ目状態種)βランク
332	97.58 97.80	(割れ目状態種)αランク		97.58	97.80	(割れ目状態種)βランク		(割れ目状態種)βランク
333	97.83 97.83	せん断性割れ目。		97.83	97.83	60°せん断性割れ目。同系統の割れ目には横断する割れ目も見られる。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。		97.83m:傾斜60°の割れ目で、同系統の割れ目には横断する割れ目も見られる。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。
334	97.80 98.37	(変質種)2ランク		97.80	98.37	(変質種)3ランク		(変質種)3ランク
335	98.16 98.37	(割れ目状態種)αランク		98.16	98.37	(割れ目状態種)βランク		(割れ目状態種)βランク
336	98.37 98.37	45°はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切り(変位量不明)、割れ目を境に上下部の岩壁状況が異なる。(上壁は硬さ「D」、下壁は硬さ「E」)。割れ目には粘土層は挟まれない。		98.37	98.37	45°のせん断性割れ目で、これと横断する割れ目と止まっている割れ目が見られる。交差する割れ目を切り(変位量不明)、割れ目を境に上下部の変質の程度岩壁状況が異なる。(上壁は硬さ「D」、下壁は硬さ「E」)。割れ目には粘土層は挟まれない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。		98.37m:傾斜45°の割れ目で、これと横断する割れ目と止まっている割れ目が見られる。割れ目を境に上下部の変質の程度が異なる。割れ目に粘土層は挟まれない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。
337	98.44 98.44	30°はせん断性割れ目で、上壁と下壁の岩壁状況を異なるものとしている(上壁は硬さ「E」、下壁は硬さ「C」)。割れ目には厚さ2~5mmの赤灰色軟弱粘土層を挟む。		98.44	98.44	30°のせん断性割れ目で、上壁と下壁の変質の程度岩壁状況を異なるものとしている(上壁は硬さ「E」、下壁は硬さ「C」)。割れ目には厚さ2~5mmを越える赤灰色軟弱粘土層を挟む。この割れ目とはほぼ直交する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。		98.44m:傾斜30°の割れ目を境に変質の程度が異なる。割れ目には幅2~5mmを越える軟弱な赤灰色粘土層を挟む。この割れ目とはほぼ直交する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。
338	98.58 99.46	(割れ目状態種)αランク		98.58	99.46	(割れ目状態種)βランク		(割れ目状態種)βランク
339	99.02 99.46	(コアの形状種)Vランク		99.02	99.46	(コアの形状種)IVランク		(コアの形状種)IVランク
340	99.46 99.68	50~60°割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する。また、幅0.5~1mmの白色~にぶい黄褐色(10YR 7/3)の粘土層を挟む。硬さも上位側の「C」から「D」に軟化している。		99.46	99.68	50~60°割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいに変質が進み砂状化する。また、幅0.5~1mmの白色~にぶい黄褐色(10YR 7/3)の粘土層を挟む。硬さも上位側の「C」から「D」に軟化している。		99.46~99.68m:傾斜50~60°の割れ目が平行に分布する。割れ目ぞいに変質が進み砂状化し、幅0.5~1mmの白~にぶい黄褐色の粘土層を挟む。
341	99.46 99.71	(風化種)δランク		99.46	99.71	(風化種)γランク		(風化種)γランク

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名: H24-D1-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
342	99.68	99.71	破砕帯	99.68	99.71	破砕部			●99.68~99.71m: 破砕部 99.68~99.69m: 粘土混じり塊状部(H) 上端65°, 下端63° ともにほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、粘土化したφ3~5mmの石英片を含む微塵状粘土で、粘土ははやや軟質。灰赤~にふい黄褐色を呈する。厚さ8mm。	・塊状、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる層状の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
343	99.68	99.69	Hc-2 上端65°, 下端63° で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒、粘土化したφ3~5mmの石英片を含む微塵状粘土で、粘土ははやや軟質。灰赤色(2.5YR 6/2)~にふい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化。厚さ8mm。	99.68	99.69	H 粘土混じり塊状破砕部 上端65°, 下端63° で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒、粘土化したφ3~5mmの石英片からなり、岩片間に1mm以下の白色粘土を挟む。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。灰赤色(2.5YR 6/2)~にふい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化。厚さ8mm。	99.68	99.71	●99.68~99.71m: 破砕部 99.68~99.69m: 粘土混じり塊状部(H) 上端65°, 下端63° ともにほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、粘土化した径3~5mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に1mm以下の白色粘土を挟む。やや軟質。灰赤~にふい黄褐色を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。幅8mm。 99.69~99.71m: 微塵状粘土状部(Hc-2) 上端65°, 下端63° ともにほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片を15%含む。やや軟質。灰赤~にふい黄褐色を呈する。幅12mm。	
344	99.69	99.71	Hb (主せん断面・99.71m) 上端63°, 下端65° で両者ともほぼ直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒、粘土化したφ3mm前後の石英片を多く含む微塵状粘土で、粘土はやや軟質。灰赤~にふい黄褐色を呈する。厚さ12mm。	99.69	99.71	Hc-2 (最新活動面・99.70m、傾斜45°) 上端63°, 下端65° で両者ともほぼ直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒、粘土化したφ3mm前後の石英片を15%含む微塵状粘土で、粘土はやや軟質。灰赤~にふい黄褐色を呈する。厚さ12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
345	99.68	99.69	(破砕度区分)Hc-2	99.68	99.69	(破砕度区分)H	99.68	99.69	(破砕度区分)H	-
346	99.69	99.71	(破砕度区分)Hb	99.69	99.71	(破砕度区分)Hc-2	99.69	99.71	(破砕度区分)Hc-2	-
347	99.71	100.00	硬さ(C)と上位より硬くなり、50~70° 割れ目、低密着割れ目と、これらに斜交~直交する30~40° 割れ目、低密着割れ目からなる。各割れ目、低密着割れ目とも粘土源ははさまない。	99.71	100.00	硬さ(B)と上位より硬くなり、50~70° 割れ目、低密着割れ目と、これらに斜交~直交する30~40° 割れ目、低密着割れ目が分布する。各割れ目、低密着割れ目とも粘土源ははさまない。	99.71	100.00	99.71~100.00m: 傾斜50~70° と、これらに斜交~直交する30~40° の割れ目や低密着割れ目が分布する。各割れ目、低密着割れ目とも粘土源ははさまない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
348	99.71	100.00	(割れ目状態)Cランク (コアの硬さ)Cランク	99.71	100.00	(割れ目状態)Bランク (コアの硬さ)Bランク	99.71	100.00	(割れ目状態)Bランク (コアの硬さ)Bランク	-
349	99.91	99.91	52° はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切り交差部1~6mm、左右し、直線状でシャープに連続する。	99.91	99.91	52° のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。多切は長さ1~6mm、左右し、直線状でシャープに連続する。割れ目には挟み物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	99.91	99.91	99.91m: 傾斜52° の割れ目は、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目には挟み物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

H27-B-1